

平成 27 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における阪南中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成 27 年 4 月から 7 月末までの期間に、2 年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の中学校第 2 学年、中等教育学校第 2 学年、特別支援学校中学部第 2 学年の原則として全生徒
- ・ 阪南中学校では、2 年生 254 名

3 調査内容

- (1) 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下、「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
中学校調査では、以下の種目を実施する。
〔8 種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か 20m シャトルランのどちらかを選択）
 - イ 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童・生徒質問紙調査」という。）を実施する。

平成27年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立 阪南 中学校

生徒数

254

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	26.76	26.13	43.16	52.00		88.48	8.36	187.58	20.33	40.10
大阪市	29.04	27.17	41.05	51.03	406.99	83.23	8.13	189.56	20.23	40.62
全国	28.93	27.43	43.08	51.62	392.63	85.56	8.01	194.05	20.65	41.89
女子	22.31	23.74	45.22	48.70		62.35	9.00	166.07	12.71	49.38
大阪市	23.89	22.98	44.11	45.89	304.14	57.34	8.99	166.02	12.84	48.12
全国	23.68	23.26	45.53	46.09	290.03	58.06	8.84	167.28	12.83	49.08

結果の概要

○体力合計点において、女子は全国平均を上回ったが、男子は全国平均を下回った。

○男女とも反復横とび、20mシャトルランにおいて全国平均を上回った。

○女子は上体起こし、男子は長座体前屈において全国平均を上回った。

○握力、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げにおいて、男女とも全国平均を下回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

＜これまでの取組の成果＞

毎年1月下旬から2月上旬の時期に、近隣にある長居公園の長距離走路を使用しマラソン大会を実施している。その大会を目標に保健体育の授業で、女子は1000m、男子は1500mの測定を行い、能力に応じて持久力を高めるために必要なインターバルトレーニングやレペティショントレーニングなどを取り入れ展開をしている。その結果、男女ともに持久力が高められ、シャトルランにおいて全国平均を上回ることができた。

＜今後の取り組むべき課題＞

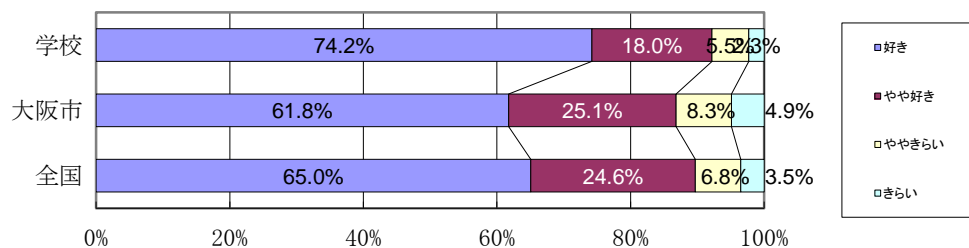
握力、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げなど、瞬間的に必要となる筋力の不足がみられる。その不足を補うため、保健体育の授業で毎時間行っている補強運動の徹底を図る。また、体力調査の際には、正しく測定できるようガイダンスをしっかりと行なう。実施の時は練習をグループで行うなど、お互いに良い結果に結びつくようなアドバイスができるようになっていきたい。

運動やスポーツについて（男子）

質問 番号	質問事項
1	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか
2	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは得意ですか
3	自分の体力に自信がありますか
4	あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか

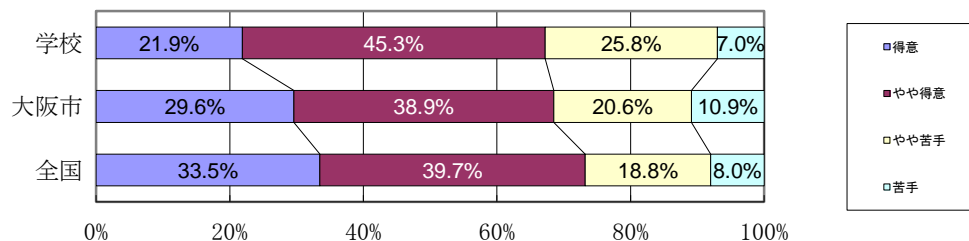
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



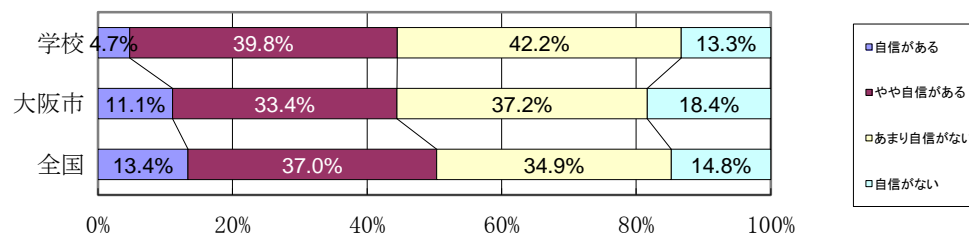
2

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは得意ですか



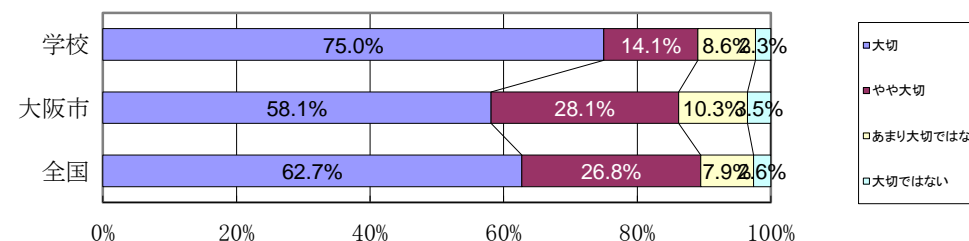
3

自分の体力に自信がありますか



4

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか



成果と課題

保健体育の授業や部活動の指導の中で、運動の必要性への理解や「やればできる」という達成感を感じられる内容を多く取り入れた成果がみられる。
しかしながら、運動が得意と回答した生徒は全国平均よりやや少なく、「やればできる」が確固たる自信につながるようにしていかなければならない。

今後の取組

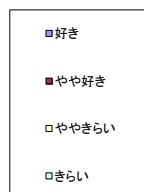
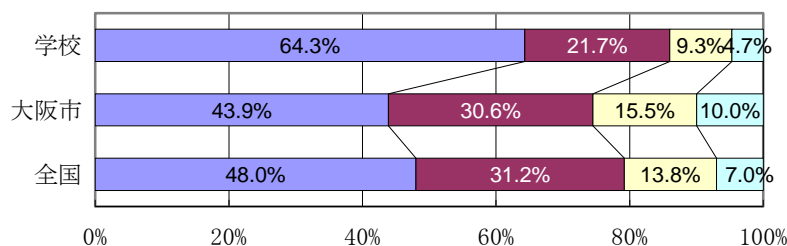
体力測定の結果を分析させ自分自身の体力がどの程度なのかを理解し、足りていない体力を強化できるよう、個々に応じたトレーニングが提供できるようにしたい。

運動やスポーツについて（女子）

質問 番号	質問事項
----------	------

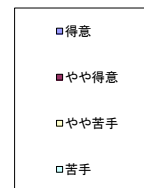
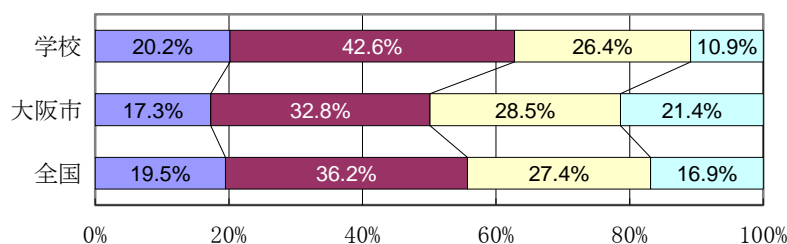
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



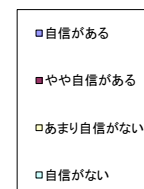
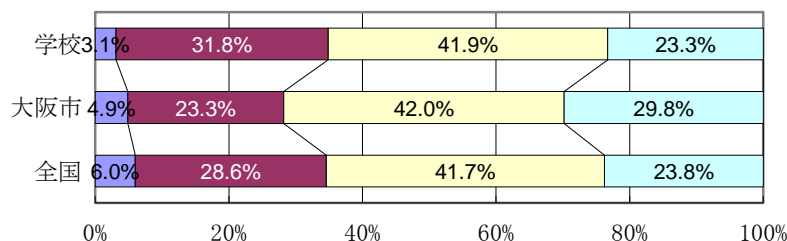
2

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは得意ですか



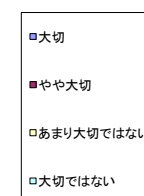
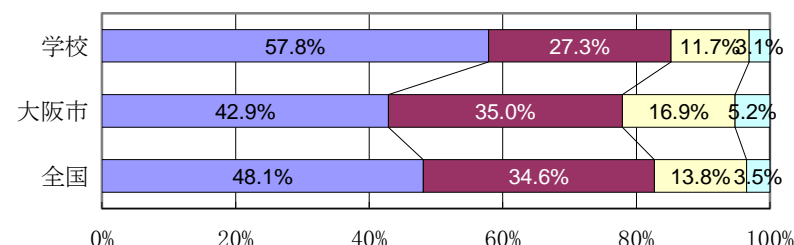
3

自分の体力に自信がありますか



4

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか



成果と課題

保健体育の授業や部活動の指導の中で、運動の必要性への理解や「やればできる」という達成感を感じられる内容を多く取り入れた成果がみられる。

しかし、男子同様に運動が得意と肯定的な回答をした生徒は全国平均と比べてもあまり高くないため、できることから自信がつけられるようにしなければならない。

今後の取組

体力測定の結果を分析させ自分自身の体力がどの程度なのかを理解し、足りていない体力を強化できるよう、個々に応じた必要なトレーニングが提供できるようにしたい。

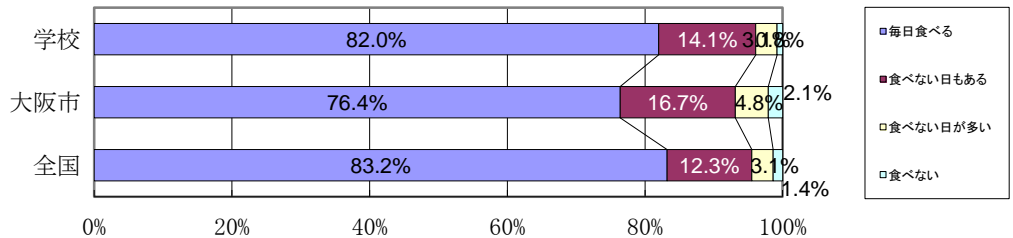
ふだんの生活について（男子）

質問
番号

質問事項

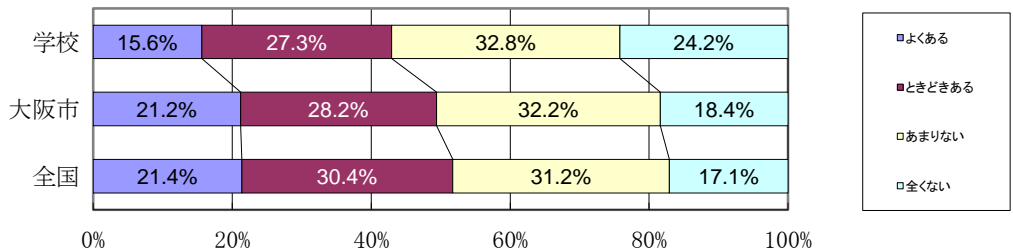
8

朝食は毎日食べますか(学校
が休みの日も含める)



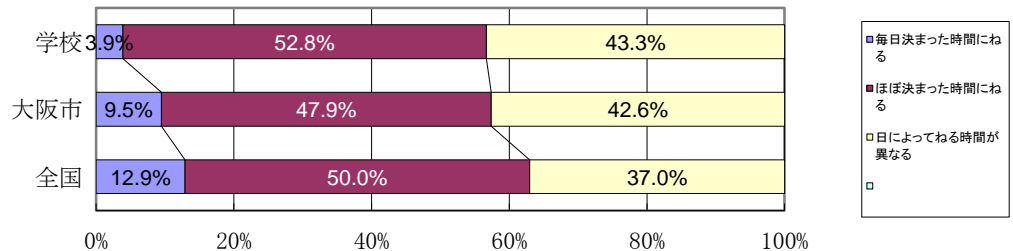
15

家の人から運動やスポーツを
積極的に行うことを勧められる
ことがありますか



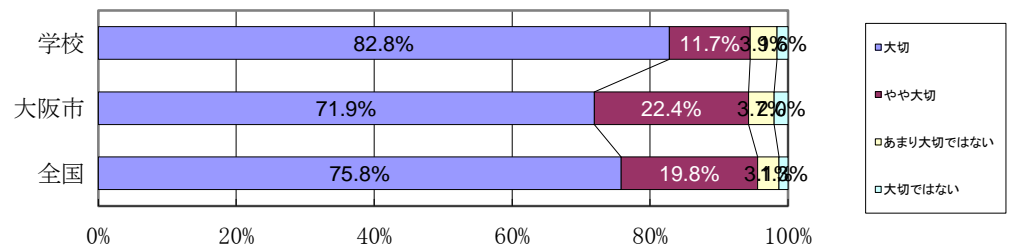
11

寝る時間は決まっていますか。



19-1

あなたが健康であるために
運動を行うことはどのくらい
大切だと考えていますか。



成果と課題

朝食や睡眠については全国平均とほぼ値が同じである。
栄養担当教員を中心に、食についての授業を行うなどにより、朝食の必要性への理解が得られている。
しかしながら、1～2割の生徒は朝食を食べない日もある・食べないと回答しているので、継続した指導が必要である。

今後の取組

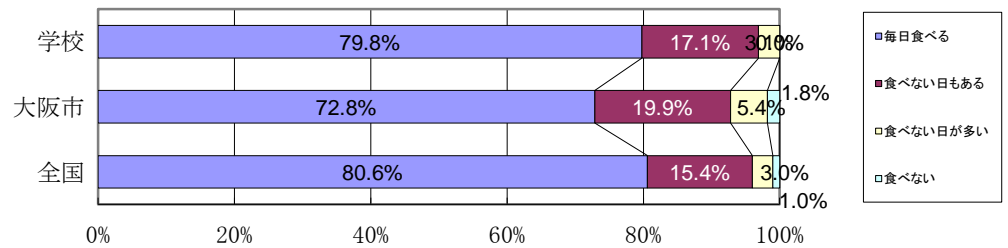
基本的な生活習慣の定着を学校全体で共通認識を持ち、生徒たちに働きかけていく。
家庭での運動習慣が低いようであるので、保護者への呼びかけや発信が必要であると感じられる。

ふだんの生活について（女子）

質問 番号 質問事項

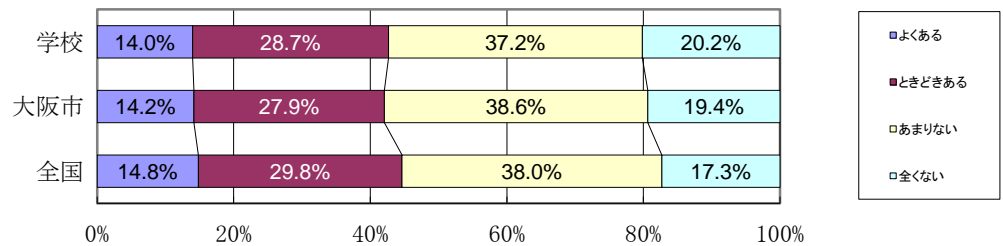
8

朝食は毎日食べますか
(学校が休みの日も含める)



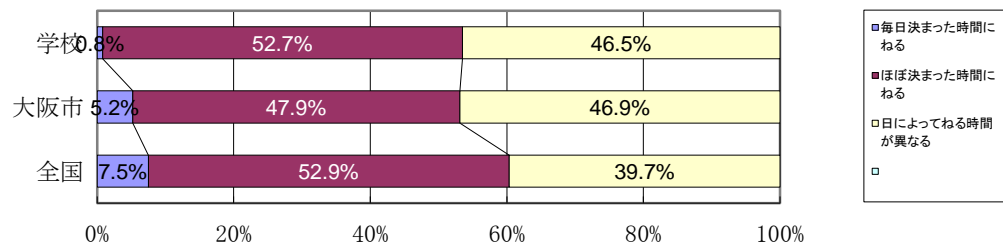
15

家の人から運動やスポーツを
積極的に行うことを勧められる
ことがありますか



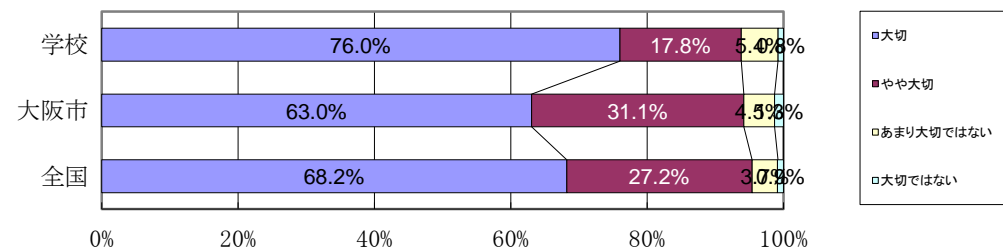
11

寝る時間は決まっていますか。



19-1

あなたが健康であるために
運動を行うことはどのくらい
大切だと考えていますか。



成果と課題

男子に比べると朝食や睡眠など、基本的な生活習慣への関心が低い。
運動に対しては必要だと感じる反面、積極的に行うことが少ないなど意識と実態が伴っていないのが課題である。

今後の取組

基本的な生活習慣の定着を学校全体で共通認識を持ち、生徒たちに働きかけていく。
家庭での運動習慣が低いようであるので、保護者への呼びかけや発信が必要であると感じられる。

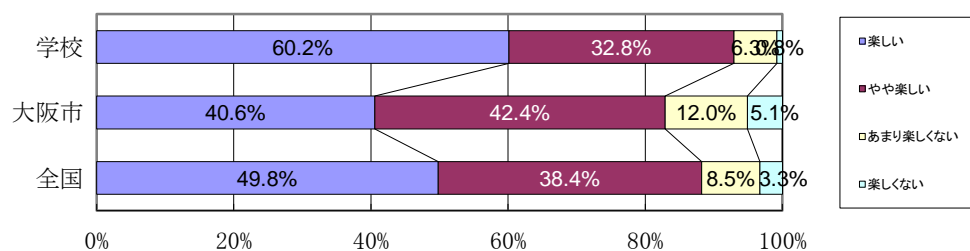
保健体育の授業について（男子）

質問
番号

質問事項

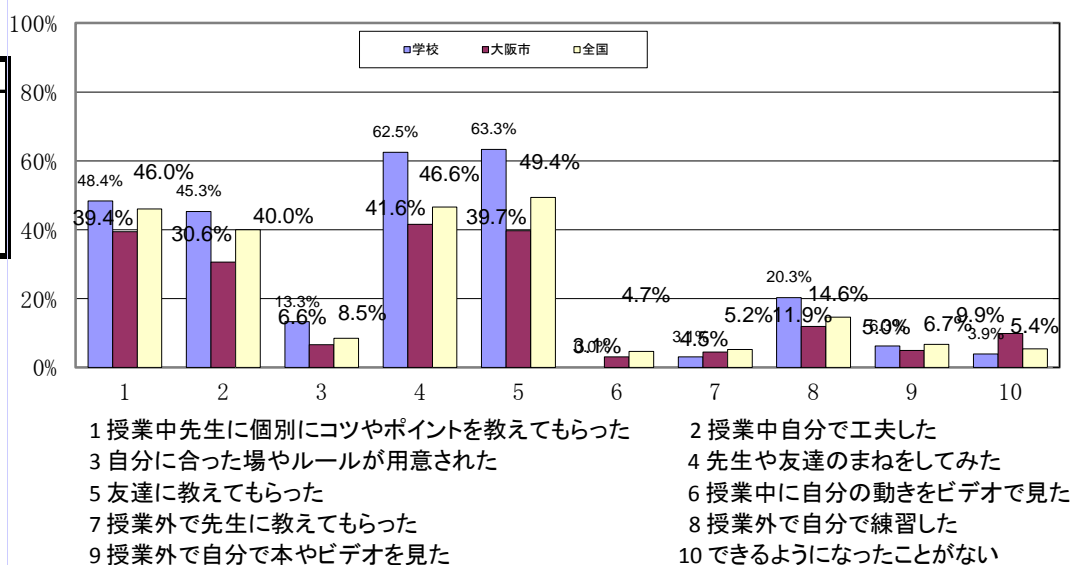
20

保健体育の授業は
楽しいですか



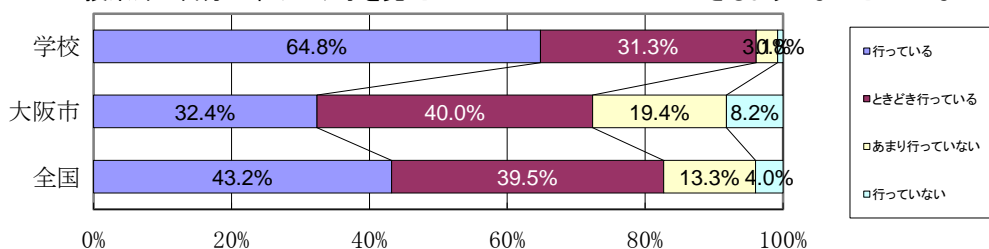
26

これまでの体育の授業で
「できなかったことができる
ようになった」きっかけ、理
由はどのようなものがありま
したか



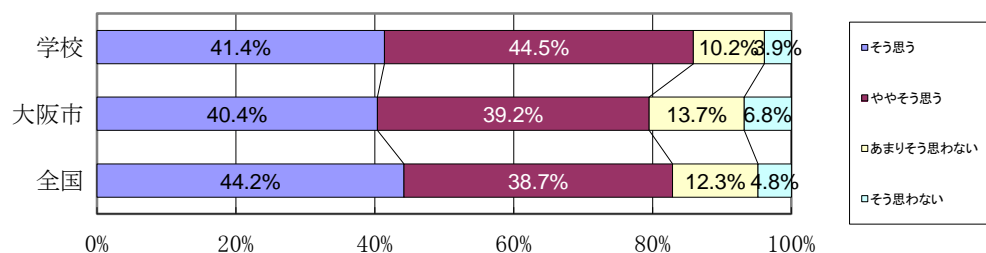
23

ふだんの体育の授業では、
友達と助け合ったり、役割
を果たすような活動を行っ
ていますか。



29

今、体育の授業で学習して
いる内容は、あなたの将来
に役に立つと思いますか。



成果と課題

9割以上の生徒が保健体育の授業を「楽しい」「やや楽しい」と肯定的な回答している。ふだんの授業のなかで友達と助けあったり、役割を果たすような活動を積極的に取り入れ、他者との関わりを多くもつことで得られた成果である。

今後の取組

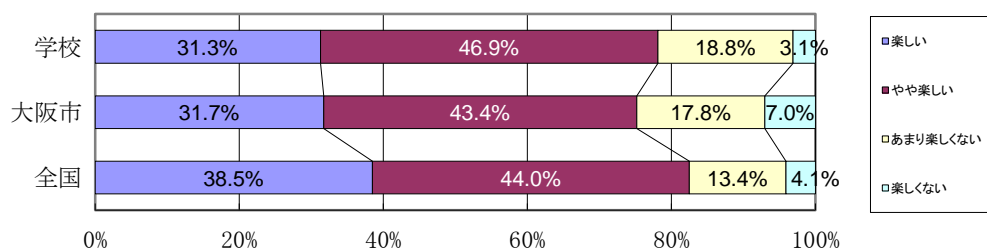
保健体育の学習内容が将来の役に立つかの質問に、約15%の生徒が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答しているので、将来を見据えた指導を取り入れていく必要がある。

保健体育の授業について（女子）

質問
番号 質問事項

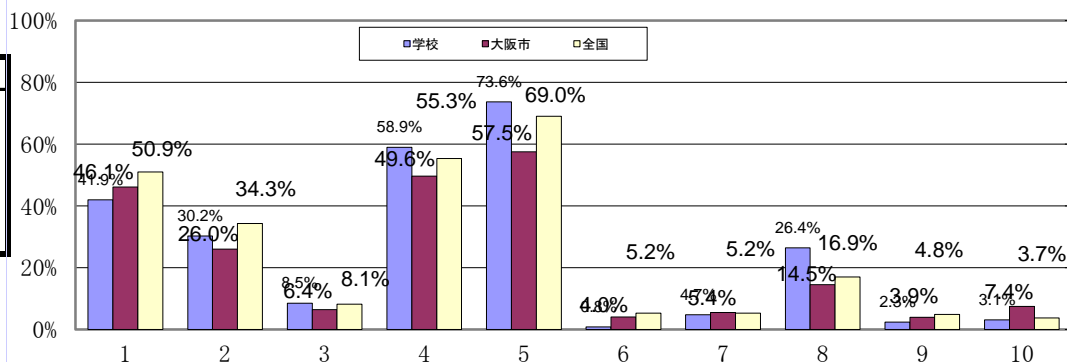
20

保健体育の授業は
楽しいですか



26

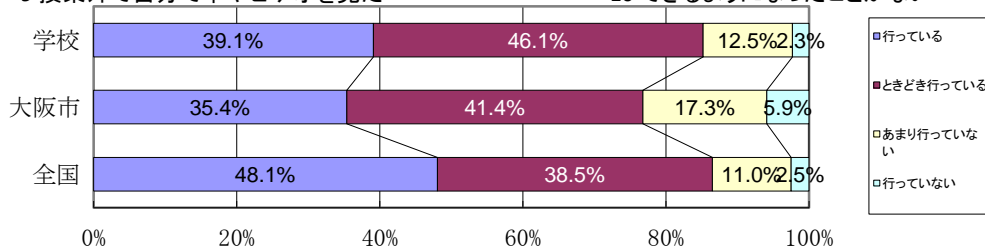
これまでの体育の授業で
「できなかったことができる
ようになった」きっかけ、理
由はどのようなものがありま
したか



- 1 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 2 授業中自分で工夫した
- 3 自分に合った場やルールが用意された
- 4 先生や友達のまねをしてみた
- 5 友達に教えてもらった
- 6 授業中に自分の動きをビデオで見た
- 7 授業外で先生に教えてもらった
- 8 授業外で自分で練習した
- 9 授業外で自分で本やビデオを見た
- 10 できるようになったことがない

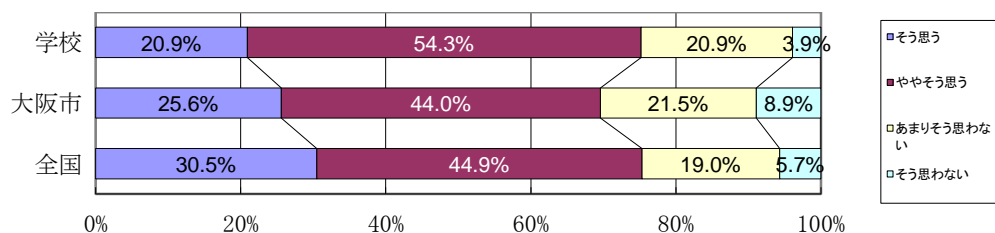
23

ふだんの体育の授業では、
友達と助け合ったり、役割
を果たすような活動を行っ
ていますか。



29

今、体育の授業で学習して
いる内容は、あなたの将来
に役に立つと思いますか。



成果と課題

保健体育の授業は楽しいですかという質問に対し、肯定的な回答をした生徒が全国平均をやや下回り、男子との差も感じられる。「ふだんの授業で友達と助けあったり、役割を果たすような活動を行なっている」の回答も全国平均と比べ低い傾向にある。他者とのかかわりを積極的に取り入れ、その関わりを持つことで運動が得意・不得意関係なく「楽しい」と感じられるようにしなければならない。

今後の取組

保健体育の授業そのものを消極的に感じている生徒が多くはなものの、より積極的に授業に取り組めるような内容を多く取り入れる必要がある。また、将来の自分自身を見つめ、運動との関連性もみつけれられるようにしたい。

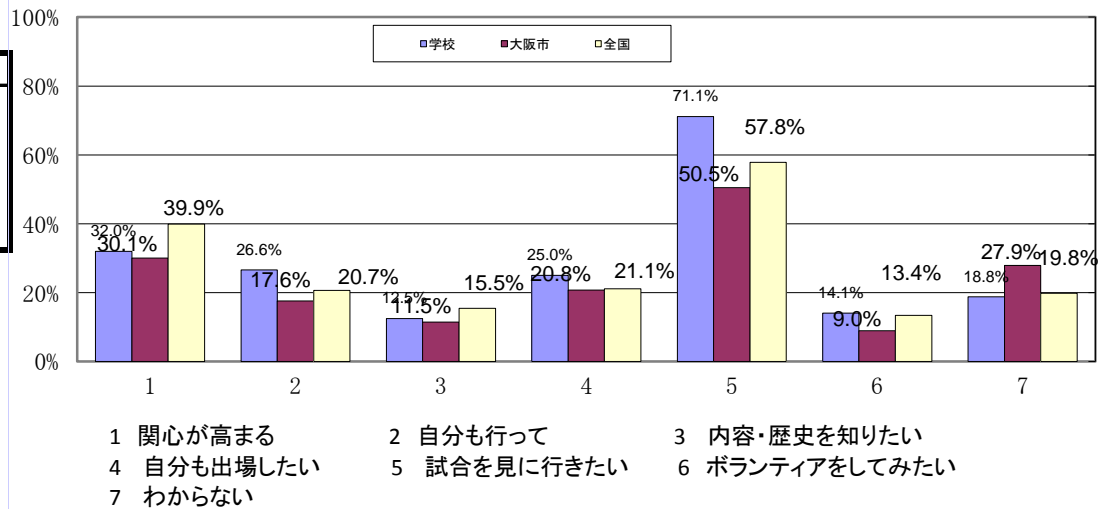
その他（男子）

質問
番号

質問事項

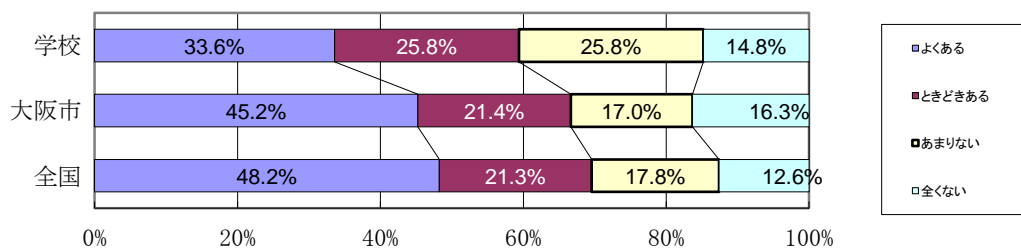
31

オリンピック・パラリンピック
への気持ち



30

放課後や学校が休みの日
に、ボールなどを使って投
げる運動をすることがありま
すか。



成果と課題

授業のなかでオリンピックやパラリンピックについての話題を、現在学習している内容にマッチさせて積極的におこなった結果、関心が高まってきている。

放課後や休日の運動を促すのはなかなか難しいと思われるので、可能な時間（昼休み）で積極的にボール等を使っての運動を促していく。

今後の取組

今後、東京オリンピック・パラリンピックについての情報を、ポスターや掲示物を通じて積極的に発信する。
また、タイムリーに行われている日本をはじめ世界での大会等の話題を、授業等で多く取り入れていく。

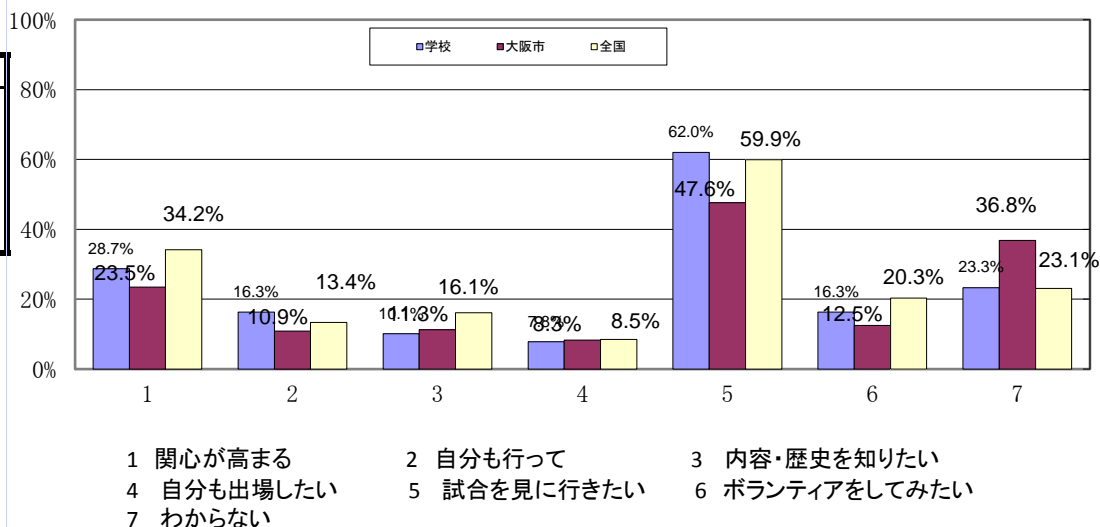
その他（女子）

質問
番号

質問事項

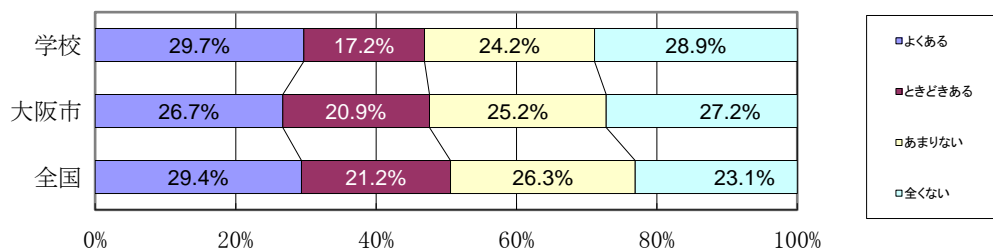
31

オリンピック・パラリンピック
への気持ち



30

放課後や学校が休みの日
に、ボールなどを使って投
げる運動をすることがありま
すか。



成果と課題

授業のなかでオリンピックやパラリンピックについての話題を、現在学習している内容にマッチさせて積極的におこなった結果、関心が高まってきている。

放課後や休日の運動を促すのはなかなか難しいと思われるので、可能な時間(昼休み)で積極的にボール等を使っての運動を促していく。

今後の取組

今後、東京オリンピック・パラリンピックについての情報を、ポスターや掲示物を通じて積極的に発信する。また、タイムリーに行われている日本をはじめ世界での大会等の話題を、授業等で多く取り入れていく。